

令和7年度 年度末反省 まとめ（最終）

1月19日

	記載者	担当	項目	成果	課題や改善案	次年度に向けて		
1	常川		重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携、キャリア教育の推進、ゲストティーチャーの取組が充実し、教育活動の質の向上につながった。子どもたちの学びの充実も実感できる一年だった。 ・振り返りを大切にしている指導を学校全体で共有できた。教育活動の質の向上につなげることができた。 ・副担任制を導入し、様々な面で複数教員の連携が強化され、とても意義があった。 				
2	常川				「自己理解の深化」については、更に捉え方の共通理解を図り、そのための手立ても検討し合い、より一層の取組につなげたい。	指導の重点として、より一層具体的な手立てを検討して教育活動に反映する。		
3	3年	研修	各教科		体育の用具など、授業に必要なものが足りていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年2月に次年度に向けて購入希望品を各教科担当がまとめている。確実にいき、年度当初に購入する。 ・半紙について…「学校の半紙を使用する」を統一する。学級置きの半紙購入を検討する。 		
4	3年	研修						
5	4年	研修		教科担任制の導入（理科、社会）を行ったことで、教材研究の負担が減った。学年間の児童の実態把握につながった。	<ul style="list-style-type: none"> ・習字の半紙について…年度初めに教室置き半紙を購入したい。 ・体育のミニハードルについて…自立するものが16個必要 			
6	2年	研修			新しい探検ボードを、学年・学級で使用できる数だけ揃えたい。		今ある物を一度選別し、新たなものを購入したい。使用できる2学年分を揃えることを検討する。	
7	5年	研修			ビブスを色ごとのカゴに分けて保管・管理し、サイズも揃える。		体育委員会で整理の仕方を検討し、早急に行う。	
8	3年	研修		総合的な			総合的な学習の時間では、子どもたちのアイディア次第で購入するものがその都度変わる。会計処理の仕方が難しい。	見直しをもって準備し、公費で購入する。また、可能な物は個人で準備して持ってくる形も検討・活用する。
9	4年	研修					材を自然（ビオトープ）相手にしたことで活動に制限がかかることが多く、児童の実感につなげにくい部分があった。（猛暑、雨、育ちすぎる雑草、落ち葉、講師の先生との兼ね合いなど）	4年生が今後、何を材にしていくのか、年度当初に検討する。4年生がビオトープを管理しながら、他の材にすることもあってもよい。

10	5年	研修	学 習 の 時 間	校内研究を中心に、総合的な学習の時間について教員が知見を深めることができた。総合的な学習の時間を充実させることの面白さを知ることができて良い経験になった。	来年度の研究テーマが、生活科・総合的な学習の時間以外だった場合、学習発表会を行事として固定化するのは難しいように感じた。 (必要に応じて計画・実施する)	校内研究であるなしに関わらず、教科として毎年しっかり取り組むものであり、教科の特性として学びの成果を発表し合うことは有意義なものである。これを踏まえ、今年度の発表会も実践して、検討していく。	
11	常川			校内研究と連動し、授業の質が高まっている。			
12	3年	管理職・教務	特 別 活		授業時数がぎりぎりのため、学校行事の精選をするべきであると考える。	工夫して組み立て、年間行事予定に反映する。	
13	2年	特活		・今年度、どの学級でも学級会をしようとして取り組む動きがあった。	・先生方の進める上での悩みや課題の共有と、どんな取り組み方をしているかの共有を行ったが、活発に学級会を行うところまで促せなかった。学級会の経験を重ねていく中で先生方もやりやすい方法が見つかっていくはずなので、引き続き来年度も学級会を積極的に行っていくよう促していく。	①4月当初に教員向けのOJT、②2学期はじめに状況の共有を設定する。	
14	2年	特活			・委員会活動を後期から6年生に1週間前に集まってもらって主体的に取り組めるように変更した。しかし、前期・後期の取り組み方だと、せっかく活動の見通しがもてて慣れてきたところでまたメンバーが変わってリセットしてしまうことになる。委員会活動のメンバーを通年にする事で、子どもたち自身が委員会の活動の見通しをもって主体的に取り組めるようにしたい。	・委員会のメンバーを通年にする。 ・通年とすることで、以前よりも児童の希望が叶いにくくなったり、様々な役職を経験する機会が少なくなったりすることが考えられる。「2年連続同じ委員会にはなれない」など、今後新たな留意事項を作るか特別活動部を中心に検討する。 ・飼育委員会は、かめ吉とノコノコのお世話だけではなく活動内容の充実を検討する。	
15	5年	特活			委員会活動を通年にできないか。(特に代表委員の前期は、現状のシステムでは運動会のことで活動の大半が終わってしまい、もったいなく感じた。)それが難しい場合は、他委員会と並列の代表委員会とは別に、各クラスから代表者を選出した計画委員会・運営委員会のような組織がほしい。(運動会・もみの木コンサートなどの学校行事を扱う)		
16	5年	管理職・教務			学校行事後に実施するアンケート内容を精査する。特に、教職員・児童・保護者の3者の意見を必ず集めるようにし、次年度以降に生かせるようにする仕組みが必要。行事が学校公開等と兼ねている場合は、学校公開に関する内容(=教務部)と行事に関する内容(=特別活動部)とで、質問内容も精査する。		・行事の振り返りアンケートを行っていく。特別活動発信の活動については子どもにも必ず振り返りをさせたい。(三茶まつり・1迎会・6送会) ・保護者のアンケートも自由記述から項目設定することで、次年度の行事に生かしやすいとする。それと合わせて教職員へのアンケート項目も保護者へのアンケートと項目をそろえ、比較しやすいとする。 →振り返りは重要だが、項目化し、数値が高いからといって変更してよいかは、学びの本質を捉えて見極める必要がある。

17	6年・栗野	特活	動	学級会の研修が勉強になった。	子どもが中心となって進めていくために、クラブ活動でも、委員会活動のように、事前に担当教員と活動内容を打ち合わせするとよい。	クラブ活動でもロイロノートのグループを作り、次年度から担当教員と中心となる子どもたちの事前打ち合わせを行う。
18	2年	特活		クラブのメンバーを前年度内に決めたこと自体はよかった。	・クラブのメンバーを前年度内に決めたが、決定に不備があった。あらかじめクラブ活動決定の基準を示す。旧担任から子どもたちに周知し、新担任に誰がどのクラブなのか共有徹底する。 ・前年度内に新6年（現5年）を集め、大まかな活動の計画を立てる。子どもたちが主体的にクラブ運営を進めていけるようにする。	・前年度のうちに新6年生のメンバーで集まり、来年度の活動の見通し（成果発表会含む）をもち、クラブ長を決めるところまで行う。 ・クラブ活動について児童に向けてオリエンテーションを行い、児童も教員も同じ認識をもってよりよい活動に向かって取り組めるようにする。
19	5年			ドッジボールクラブの人数が多すぎた反省はあるが、クラブ数が増えたことで、1クラブあたりの人数が減り、児童の関わりが深まったように感じた。		・人数の設定を見直す。以下の②③で調整する。 <来年度のクラブ編成スケジュール> ①新しいクラブの設立について3・4・5年生にアンケートをとる（1月） ②5年生に来年度のクラブの希望をとる（必要に応じて調整する） ③3・4年生にクラブの希望をとる（2月下旬） ④5年生と来年度の見通しをもつ（3月）
20	4年	特活			クラブ活動について、各クラブの人数の設定を見直す。（ドッジボールクラブは人数が多く運動量が十分でなかった。）	
21	佐藤裕	管理職・教務		学芸会から学習発表会になったことで、学芸会の著作権の観点からもよかった。	学習発表会当日も合唱団で体育館を朝練の時間だけ使用したい。	体育館が使用できるように計画する。
22	6年・栗野	特活			三茶祭りのカリキュラムマネジメントが難しかった。将来的に、三茶まつりをなくしてもよい。	R8は継続。今後、必要に応じて話し合う。
23	常川			学級活動（学級会）への意識の高まりが表れた学習を進めることができた。		
24	4年			今年度、4年生はビオトープで学習を進めたため、二分の一成人式は実施していない。（2学期末保護者会で周知）		
25	佐藤裕	管理職・教務	キャリア教育	駒の学び舎の連携で、駒沢中学校の合唱コンクールを鑑賞できたことは児童が歌唱学習を深めるための良い機会となった。	駒沢中学校の合唱を鑑賞するだけでなく、駒沢小学校さんとともに、6年生が学習の成果の場として活用するのがよい。より充実した時間となるよう、小学生の発表とその場で歌う自分の歌声と比較して鑑賞してほしい。	3校で互いに合唱を聴き合う形式は実施できる可能性がある。意見として踏まえ、3校で相談してみる。「中学生は自由曲のみ」「時間をコンパクトにする」なども含めて検討する。
26	常川			全校で統一した取組として、キャリア・パスポートが充実した。		

27	常川			月1回の検討会等を活用し、キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力の育成という視点が醸成されてきた。			
28	3年	管理職・教務	特別な配慮を必要とする児童	下田先生の取り出し授業が効果的だった。	教室で学習を支援する人材が不足していた。校内で賄うのは厳しい。	学校運営協議会との連携を検討する。	
29	4年	生活			すまいるの保護者面談を実施する前に担任との共有があるとありがたい。		診断・服薬・医療・進学・新たな支援方法の提案等は、特に慎重に事前に担任とも相談する。すまいるルーム担当教員から担任に声を掛けていただく。場合によっては特別支援COが調整をサポートする。
30	佐藤裕			校内委員会を1か月に1回設置していただいたことで、問題点を共有しやすかった。引き続き月予定に校内委員会を月1回設定していただきたい。			
31	佐藤裕	生活		学校サポーターの配置時数が増えたことで、人手が足りているように思う。	定期的に学校にご支援いただける方を確保したい。		人材がいれば随時副校長先生に相談する。
32	坂本	管理職・教務		保健室登校の児童が週3日間の6時間目をほっとルームで過ごせたことは良かった。また、校長室で過ごせたことも良かった。	もう少し他の場所で過ごせるとありがたい。		児童の様子に合わせて、検討・相談していく。
33	6年・栗野	管理職・教務			保健室登校の児童の給食を運ぶときに担任が教室をあけることに不安がある。担任の先生ではなく職員室にいる先生が運ぶことはできないか		3学期から、保健室登校が明確な場合、その児童分を職員室に配膳する。
34	6年・栗野				サポーターの先生が充実していて、沢山の大人の目で見ることができている。		
35	常川				特別支援コーディネーター、インクルーシブ教育支援員、エデュケーションアシスタント、学校生活サポーターなど、人材を活用し、連携を高めることができた。支援が必要な子どもたちのために組織的に協力することができた。		
36	5年		生活指導	毎月の安全指導の内容がとても充実していて、昨年以前よりも児童が真剣な態度で指導に聞き入っている様子があった。			
37	2年	生活		給食時間の指導の仕方の統一を徹底したい。13時前に昇降口に向かっていないクラスや廊下や教室内で自由に過ごすクラスも見受けられた。13時までは着席して待つ、もしくは教室内から出ない、の方法を徹底したい。		13時までは給食の時間である。休み時間のようにならない指導を行う。生活指導部を中心に、共通理解をもってよりよい指導の方法を話し合って取り組む。	

38	3年	生活
39	3年	生活
40	3年	生活
41	4年	生活
42	佐藤裕	生活
43	坂本	管理職・ 教務
44	6年・栗 野	生活
45	6年・栗 野	生活
46	6年・栗 野	生活
47	常川	生活
48	1年	生活
49	5年	生活
50	3年	
51	佐藤裕	

	自在ぼうきを増やしたい。	年度末に各教室の掃除用具の数を確認し、必要数を揃える。
	白衣の大きめサイズを各クラス1セット置いてほしい。	校内で購入ができるか調整する。
	1年生下校後の6時間目に1回は設定をし、BOPも参加する避難訓練を実施してはどうか。	実施の方向で検討する。
	○掃除用具の箒など（児童用、教師用）の新調をお願いしたい。	次年度の購入希望を調整し、必要数を揃える。
	清掃場所について。家庭科室と理科室の割り当ては、児童の指導監督の面でなくした方がよい。	次年度の清掃分担を見直し、左記を反映する。
	健康観察をc4thに入力することを担任の先生をお願いしたい。	来年度から担任が行う。C4thポータブルを運用し、タブレットですぐに入力できるようにする。
	教師の授業中の言葉遣いや呼名について、改めて意識していきたい。先生によって差があるように感じる。講師の先生も含めて年度当初に全体で確認したい。	年度はじめの生活指導重点職員会議にて議題の一つにする。生活指導部主導で取り組む。
	給食指導でマスクがない児童が多い。感染症の対策のためにも徹底する。すぐー等を活用し、保護者の理解も促す。	マスクを2個以上ランドセルに必ず入れておくようにする。入学のしおり・学校のきまりにも記載する。給食当番以外にも急な体調不良、学級閉鎖になりかねない状況時の使用などにも活用できる。
	4階の特別教室や体育館などの掃除は安全管理が難しい。担当学級が隔週に1回など、回数を決めて教員がいる状態で清掃する等できないか。	次年度の清掃分担で、家庭科室と理科室は児童の清掃場所にしない。
	中休みと昼休みの看護当番（特に校庭当番）をより徹底する。できるだけ休み時間の始まりから見守りを行う。出張等で立てない日は確実に相談、調整をしておく。事故やトラブルの未然防止・対応のためにもっと緊張感をもたなければならない。	現状の人数で取組を徹底する。
	雑巾のかけ方について、勢いよく廊下で雑巾がけをしている児童を多く見る。以前環境美化委員会が紹介してくれた「ワイパー拭き」を徹底して怪我防止につなげたい。	3学期はじめの生活指導終礼で再度確認する。
	学校生活のきまりの内容を再度確認したい。コロナ禍で実施していない等の内容も残っており、もっと精査したり、必要なものを追記したりできる。（朝遊びの記載をなくす）	来年度の学校生活のきまりの話し合いで精査し、教育計画や教室掲示に反映する。
	弁護士を招いてお話が聞けたのがよかった。	
	毎月いじめ対策委員会が開催されているので内容について共有しやすい。教員もいじめ予防学習の指導についてより関心をもつことができた。	

52	坂本		いじめ防止等	いじめ対策委員会が月1回実施されているため昨年度よりも実態把握することができて、より児童を気にかけることができた。		
53	6年・栗野			いじめ対策委員会など、いじめに関して学校全体で対応できている。いじめ防止の授業は児童にとって良い影響があり、いじめ防止につながっている。		
54	常川			いじめ対策委員会が昨年よりも機能した。		
55	常川	管理職・教務		主任会でのいじめの未然防止を中心とした話し合いを機能させることができた。組織的に全校の児童理解に努め、多くの目で子どもたちを見守る取組を推進できた。	次年度は主任会を月2回程度としたい。いじめ未然防止とその他の話題も含めた共有・相談の会とし、主任教諭を中心としたミドルアップミドルダウンができる組織づくりを推進したい。	次年度実施する。
56	佐藤裕	特活	特色ある教育活動	三茶太鼓は本校の伝統かもしれないが、授業として扱うには限界がある。和太鼓に関しての学習指導要領での扱いは「日本の音楽に触れる」で留まるところで扱うことは厳しい。また、和太鼓の楽器は全てレッツゴー太鼓さんからお借りしたもの。長年使用してきたことで将来破損の恐れがある。破損した場合の責任の所在は？高学年の先生方のご負担と教科の扱いを考えると、三茶太鼓はなくすか、指導は、放課後の体育館でレッツゴー太鼓さん等に委託したほうがいいのではないか。		校長先生に意見として把握していただく。
57	5年			三茶太鼓などの特色ある教育活動を通して、地域人材との連携を深められた。		
58	常川			三茶太鼓について。5年生は総合的な学習の時間で重点とし、6年生は学級活動(3)と教科「日本語」とする。これらが整理され、三茶太鼓の位置付けが明確になった。		
59	6年・栗野	管理職・教務			6年生のスピーチについて、子供も教員も負担が大きく、指導を勤務時間外に設定している時が多い。 →来年度からなくしてもよいのではないか。	小規模校ならではの子どもにとって貴重な機会。R8は継続する。 「1学期はじめに国語「話す・聞く」の学習でカリキュラム・マネジメントに取り組む。6年生一人一人がスピーチの内容を固めておく。担任は人権と内容に配慮する。1年生にも分かる内容を考える。分量もある程度コンパクトにする。」などを工夫する。
60	5年	管理職・教務		児童朝会の6年生のあいさつとスピーチは、6年担任の負担が大きく、児童の学びとしても効果が大きくないように感じる。どちらかに絞って実施することを検討してもよいのではないか。		
61	6年・栗野		働き方改革	月ごとの残業時間の表は、自分の残業時間を客観視できて、改善しようとする気持ちになる。		
62	2年			高学年に講師の先生方がつき、教科担任制の導入もあって担任の負担が減ったのはよかった。		

63	3年	管理職・ 教務		学校公開で授業を見に来る保護者がそれほど多くないので、次年度は行事で5日間、残り5日の公開の仕方を午前のみ、午後のみ、様々な曜日で設定するとよいのではないか。全日公開を3日連続は厳しい。	工夫して組み立て、年間行事予定に反映する。
64	3年	管理職・		空き時間の少ない3・4年生にも英語の講師がいてほしい。	校長先生に意見として把握していただく。
65	4年	管理職・ 教務		○成績処理などを行うために、B時程5時間や6時間授業の設定があるとありがたい。(12月上旬あたり)	年間行事予定を工夫して組み立てる。
66	4年	管理職・		中学年にも講師の割り当てがあるとありがたい。	校長先生に意見として把握していただく。
67	4年	管理職・ 教務		都民の日について、近隣の学校は休みになるところが多いため、本校も休みにしてよい。	意見を踏まえ、検討する。
68	佐藤裕	管理職・ 教務		3, 4年の先生方の空き時間の数は、5, 6年の先生方の空き時間と比べてとても少ない。空き時間を平等にしたほうがよい。	校長先生に意見として把握していただく。
69	佐藤裕	管理職・教務		若林音楽祭に引率の先生が振替をできるようにする。	校長先生に意見として把握していただく。
70	5年			通知表の記載内容が整理され、基本が年間1回になったことで、伝える内容が焦点化された。成長の過程を踏まえた記載もできて大変ありがたい。	
71	常川	管理職・ 教務		よりよい教育活動を目指し、以下の3点を次年度の教育課程で実現したい。 ・職員会議を「年度始め・学期末・年度末」以外なくし、企画調整会のみとする。企画調整会のみの場合は、学年や島で共有を丁寧に行う。 ・「社会科見学」「遠足」を「校外学習」とする。3年生以上は、社会科に限らず、総合的な学習の時間や理科等での学習としても活用できる。 1・2年生は、内容によっては生活科等の学習としてカリキュラムマネジメントができるようにする。	検討し、次年度の計画に反映する。
72	常川			SSSの寺島さんに日々たいへんお世話になり、とても有難い。	
73	常川			デジタル化、ペーパーレス化がより浸透してきて業務改善が進んだ。	
74	6年・栗野		年間 授 業 時 数	余剰がほぼなく設定していただき、ありがたい。	
75	3年	管理職・ 教務		学級閉鎖などを鑑みて、各学年多少の余剰は必要ではないか。	
76	常川	管理職・ 教務		余剰授業時数を最小限とし、標準時数を基本とした初めての年を過ごした。余剰時数が少なすぎるのも教育活動として難しくなることが分かった。余剰時数は今年度並みをベースとして次年度の計画も行うようにする。	左記のように計画する。

77	6年・栗野	管理職・教務	時程・時間割	図工は連続で時間をとっていただき、ありがたいです。	月曜時間割は、講師の時間をずらせないので、なくてよい。担任がその都度調整できる。	
78	4年	研修			・固定時間割が図工（月1）音楽（水1、金1）が全て1時間目なので配慮してほしい。 ・週3時間の体育のうち2時間が6時間目の割り当てで5時間授業の日なども多いので時数を確保することが難しい。	時間割を組む際、なるべく偏らないようにする。また、体育など学年で5・6時間目と続くところもあるため、入れ替えるなど、学年間でも連携を取るようになる。
79	5年	生活			掃除終わり（5時間目3分前）に予鈴があるとありがたい。昇降口掃除の児童が夢中になって帰ってこない場合がある。	昇降口に時計を置くことで対応したい。
80	常川	研修			水・木・金曜日の5・6時間目はどうしてもカットされる日が増えてしまう。そのため、専科・体育・算数ができるだけ入らないように時間割を組み立てる。または、同じ学年・学級が5・6時間目に入らないようにバランスを考える。	時間割を組む際、なるべく偏らないようにする。
81	佐藤裕	管理職・教務	運営組織・分掌等		三部会のほかに、教務、ICTのうちから1つに所属して、さらに、体育的行事、学芸的行事、のうちから1つに所属して、一人計3の部会に所属する仕組みはどうか。仕事の分担の軽重を減らしたい。	
82	6年・栗野	管理職・教務			・学校便りは負担が重い。担当は二人いた方がよい。他の分掌も引き継げるように2人体制にできないか。 ・分掌の表は、職員室のどこかにあると、担当がすぐ確認できるので、お願いするのを主の先生に集中することを防げる。	・校長先生に意見として把握していただく。 ・校務分掌一覧表は年度初めに全員に配布している。
83	常川			校務分掌組織を三部会に改編したことで、より役割分担がスムーズになった。それぞれの分掌を複数で協力して取り組むことでバランスがよくなり、引継ぎもしやすくなった。		デスクマットに入れるなど、いつでも確認できるようにする。常に校務分掌組織を踏まえて適切に役割分担をし、協力して職務に当たる。
84	常川	管理職・教務			タブレットに関わる業務、C4 t hに関わる業務など、今後教育DXに関わる業務は更に増えていくと予想される。現状でも既に大変なので、今後特設委員会として「ICT委員会」の設置を検討したい。	
85	常川			今田先生、福田先生を中心とした若手OJT研修がより一層組織的に取り組めるようになり充実した。		
86	3年	管理職・教務	文書・保管		個人情報保護の観点から通知表は回収しない。すまいるファイルの取り扱いも十分気を付ける必要がある。	1学期末反省の改善案のとおり、通知表は毎学期渡し、そのまま家庭保管。個人情報用封筒を使って、学校と家庭のやりとりをする。

87	2年		研究	・各学年の研究授業を通して、総合的な学習の時間の進め方や大切にポイントなどについて学んだり考えたりする機会を得ることができた。		
88	3年			校内研の協議会が参加しやすく、充実していた。		
89	4年			校内研究に総合的な学習の時間を設定したことで、児童も教員も試行錯誤しながら取り組むことができた。		
90	佐藤裕			講師の先生がお二方いらしたことで、総合的な学習の組み立て方だけではなく、授業を確立していく上での視野が広がった。		
91	常川			石原先生、日浦先生からのご指導は、最前線で日々授業実践をされている先生の言葉なので説得力があった。即、次の授業に生かせるご指導をいただいた。		
92	6年・栗野	研修			<ul style="list-style-type: none"> ・若手向けのOJTを校内全体にも周知してほしい。OJT希望者は参加できるようにすると、校内全体の授業力向上につながる。初任校の先生は、打ち合わせをして、毎週どこかのクラスの授業を見に行くとなれるのではと思った。 ・研究授業の回数を減らすことはできないか。低中高専科の4回または3回にできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT周知について：チームスに研修のタブを作る。→授業観察などの指導案もそこにアップし、見やすくすることを検討する。 ・研究授業の回数について：研究全体会で改めて検討する。 ・授業力向上のため、授業観察の機会を活用し、校内でもっとお互いを見合う意識を高めていく。授業を見合う校内体制をよりよく検討する。授業を見せていただく際の礼儀も大切にする。
93	3年	管理職・教務	情報ICT	キーボードの故障が増えてきている。EZキャストの接続も不安定。	校務分掌の組織編成と連動して検討・対応していく。	
94	6年・栗野	管理職・教務		Teams内を整理し、困ったときに参考なるマニュアルを一括で管理していきたい。担当だけでは大変なので、整理の仕方を決めて分担してできないか。		

95	佐藤裕	管理職・ 教務	施設・ 設備	・職員室内の机上整理されている先生が増えて、職員室がすっきりしてきた。 ・職員室のレイアウトがすっきりした。片付いた。	西校舎は、耐震チェックが必要。	校長先生に把握していただき、対応していく。	
96	5年	管理職・ 教務			外の体育倉庫が暗く、用具の出し入れに不便などときがある。可能であれば、電気を付けてほしい。		
97	5年	管理職・ 教務			体育館開放後に、用具のお菓子のゴミが落ちていることが増えてきている。使用のルールを見直す必要性を感じる。		
98	5年	管理職・ 教務			教室上部についているアナログテレビは、掃除がしにくいかつ危険なので外す。		
99	5年	研修			各クラスに個人用の教科書ボックスを公費で購入できないか。管理がしやすくおすすめ。		公費で購入し、各教室に10個程度必ずあるようにすることを検討する。
100	6年・栗野	生活			・6年3組のドアが勝手に閉まってしまう。 ・児童会室を生活科室にして、有効活用したい。		・ドアストッパーを購入する。 ・現生活室をほっとルーム&学習室に、現児童会室を生活科室&児童会室にし、名称を変更する。
101	3年	生活	給食	毎日、教室の前までワゴンを運んでおいてくださるのがありがたい。台ふきも濡れた状態なので、すぐに給食準備にとりかかれる。	毎日のチェック用紙のカレンダーは、給食のない土日や祝日を網掛けにしていただけると、記入しやすくなって助かる。	早急にカレンダーを改善する。	
102	3年	管理職・ 教務	環境	主事さんがこまめに掃除してくれていて、助かっている。	鍵の在りかがわからないことがある。鍵を持ち出すときには、ネーム札をかけるように徹底する。	すぐに改善し、全員で取り組む。	
103	3年	研修	図書		夏休みや冬休みの長い休みの前は、読書を推進するために1人3冊～5冊借りられるようにしてはどうか。	提案の通り、冊数を増やす。	
104	1年				1年生において、最も「学ぶことが楽しい」と感じていると思われる瞬間は「生活科」で自分たちの思いや願いを実現しようとしているときであったと感じる。そのため他教科においても、一人一人の児童の思いや願いに沿った学習の進め方をすることで、「学ぶことが楽しい」と感じる児童が増えると考え。 (目的を達成するための方法を各々が選択するなど)	【研修部】 児童…①子ども同士の学び合いの場を意図的に設定する。②学び方、学びのまとめ方等に自分で選択する余地をもたせる。 教師…①子どもたちが学び合えるよう、何を身に付けさせる必要があるのか考える。②子どもに主体的に	

105	2年		「学 校 関 係 者 が 楽 し い ア ン ケ ー ツ に つ い て」	・子ども自身が「わかった」「できた」を味わえるような授業づくりを心がけた。	・その時間やその単元で子どもたちに身につけさせたい力は何かを教師側が把握し、それをどのタイミングでどのように身につけさせるか計画が十分でないところがあった。 ・子どもたちが受け身でいる限り、なかなか「楽しい」は生まれにくいと考える。 →振り返りを有効活用しながら、この力をつけるとどんなことができそうか、どんなことに取り組んでみたいか子どもたちに考えさせる時間を毎時間でなくても設定していきたい。	させる必要かめるのか考える。②OJTなどに積極的に参加し、指導法について学び続ける意識をもつ。③教員間でも情報共有を行い、積極的に授業力向上を目指す。
106	4年			聞くだけでなく、活動する時間を増やす。 まとめ方や学び方を児童が選択できるようにする。 「できる!」「わかる!」が1時間の中にあるように授業展開を工夫する。		
107	5年			グループ活動を多く取り入れ、先生以外からも「伝える・聴く」「教える・教わる」といった学び合いの経験を増やすことで、協働的な学びの実現を図る。		
108	6年・栗野			授業力の向上のために、OJTを充実したい。授業の参観の機会を増やす。いつでも誰の授業を参観してもよいという雰囲気を学校全体で作りたい。		
109	常川			引き続き魅力的な教材づくりに努める。教材にたくさん触れ、繰り返し浸れることを大切にする。子どもたちのやってみよう、なんだろう、知りたい、考えたいを大切にする。これらがまず「学ぶことが楽しい」の大きな土台となると考える。また、次期学習指導要領の論点整理では改めて「主体的・対話的で深い学びの実装」が謳われ、本校でも「探究的な学び」に取り組んでいる。これらの充実が学ぶ楽しさや喜びに直結すると考える。		
110	1年		「自分」	友達同士で良さを見つけて伝え合うことによって、自分自身の良さに気付けるようにする。様々な教科の中で行ったり、生活の中で頻繁に行ったりすることによって、良さを伝えられる児童が偏ることのないようにする。	【研修部】 児童同士の横のつながりを意識する。目に見えてわかる形で、「ほめことば」が手元に残るとまた実感もわきやすいと考える。よいことみつけなどを通して、付箋やカードなどを交換したり、定期的に自らの良さ、友達の良いところを伝えたりする機会を授業	

111	2年		には自分なりのよさがあ ると思う について	学校関係者評価アンケート	・子ども同士でよいところ見つけをする活動では、互いによいところを認め合い、よいところを認めてもらうことの心地よさを味わわせることができた。 ・どうしても友達と比べて「ここができない」「ここが思ったようにならない」「いつも自分が劣って感じる」と思ってしまう瞬間は出てきてしまう。 →そういう場で教師が、個々の努力の過程やできていることを価値づける言葉かけを行うだけでも、子どもたち自身が頑張り続ける原動力につながると考える。 ・前任校での取り組みだが、「よいところ見つけ」の取組を全校で一斉に行い、クラス内でよいところを書かせるだけでなく、保護者にも子どもの良さについて認める手紙を書いてもらっていた。様々な家庭もある中で全家庭から回収する大変さもあるが、子どもたちは自分の親から褒めてもらった手紙をもらう機会を嬉しそうにしていた。 →クラス内の友達だけでなく、様々な人から自分自身の良さを認めてもらう機会を設定するのよいのではと考える。	定期的に自分のよさ、友達のよさに目を向けたりする機会を授業内に設ける。 【1年】 「よいところみつけ」 帰りの会や各授業で行う。(例…図工の作品を鑑賞して、国語の文を読んで、算数の計算の仕方を聞いて など) 【2年】 「よいところみつけ」 ・行事の期間(運動会、展覧会、学習発表会など)に保護者によいところみつけを書いてもらう。その期間に子ども同士でもよいところみつけを見つけをする。それらを廊下に掲示する。 ・互いのよいところみつけを全員で行う。持ち帰ることで保護者にも見てもらう。 ・代表委員が無記名で数人ずつよかった姿を書く。全校児童が目につくようなところに葉っぱのカードで掲示する。よいところの木が年間を通じて育っていく。 【6年】 「よいところみつけ」 ・褒めしりとり ・毎日の小さな活動でも「働きの者」「助けてくれた」「手伝ってくれた」などのMVPを決める。子どもが決めるor担任が決めるそれらを掲示する。
112	4年				児童同士で認め合える時間を設ける。 道徳の時間やキャリアパスポートなどを活用し、自身の成長を考える時間を確保する。	
113	5年				「自分のよさ」よりも「自分らしさ」に注目し、苦手なことも自分らしさとして肯定できる児童の育成をはかる。その姿勢を教師から示していく。	
114	6年・業 野				それぞれの違いを認める温かい指導をしたい。	
115	常川				友達や先生から褒められる機会のより一層の充実。承認されているという気持ちを高められるようにする。よさの自覚には、他者からの肯定的評価が何より大きいと考える。自己肯定感、自己有用感、自己有能感、自己効力感、それぞれを大切にしたい。	→来年度全校で取り組めることを研修部で検討し、年度はじめに提案する。
116	1年		「子どもに生活を改善する力を高める」	「子どもに生活を改善する力を高める」	教員がしていても伝わっていない場合があるため、HPで発信したりや保護者会で伝えたりする。また、児童の生活に生かされるよう、継続的に指導する。	
117	2年	・ただだめなものをダメと指導するのではなく、「どのようにすればよいのか」まで言葉かけをしていく必要がある。 →整理整頓ができない児童に対して「片付けて」と促すだけでなく、学級全体で定期的に引き出しの中を整理する時間をもって整理された状態の気持ちよさを感じさせたり、どこに何を入ると良いか示しながら片付けをさせたりする指導を低学年のうちから徹底する、など。 →子どもたちに振り返りをする機会を設け、できた・できていないだけでなく、できていないことについてどのように改善していくのかまで考えさせていく。必要に応じて助言をしていく。			【研修部】 ・週目標をH.P.で示し、各学級でさらに重点として意識させる。 ・保護者・児童・教員で、共通理解できるよう、キャリアパスポートを改良する。 ・下校時刻が早すぎる学級もあるので適切な時間について見直す。→生活指導部を中心に指導内容を確認する。 ・キャリア・パスポートに保護者からの「さらに成長してほしいこと」の項目と、生活面を振り返る項目を入れる。	
118	4年				家庭と連携して、児童への支援を行う。	【1年】 キャリアパスポートの活用について…学期ごとの目標を記入

119	佐藤裕		「アンケート の指導をしている」 について		授業開始時刻が大幅に遅れてしまう学級がある。教員の意識を改革する必要もある。学級経営と紐づく部分が多いと思うので、OJT研修などで「時間を守る指導方法」「遅刻の児童が減少するための指導方法」を学ぶ。	「ヤツノハベホートの元夫について」…子期この目標を記入できる欄をつくる。保護者の方も目標に対しての振り返りを確認することで、子どもの成長を感じることができる。	
120	5年				児童や保護者によって、改善内容や改善に対する意識に違いがある。例えば、キャリアパスポートにメッセージと別で「さらに成長してほしいこと」等を記入できる欄をつくり、保護者の願いを児童も教師も把握できるようにする。	→キャリア・パスポートの改良について、研修部で検討し、担当と連携し、来年度より反映する。	
121	6年・栗野				担任は身の回りの整理整頓について、子どもへの指導を日々行っているように感じる。	荷物を自分で管理できるような指導を、発達段階を踏まえて行っていく。	
122	常川		「子どもが探究した学校関係者となる学習内容がある」 について		生活面においても主体的な取組の姿勢を育てる。必要感をもって子ども自身が課題意識をもてるようにし、課題解決の方法を一人一人考え、実行し、振り返られるようにする。この取組を保護者・地域にも発信する。	【研修部】 学校公開などを活用して、実際に児童の学びの姿を見てもらう。保護者会・学習発表会で活動経過や学習のまとめを発信する。まずは保護者にも知っていただく。保護者も地域の財として、生活科・総合的な学習の時間で活用していく。	
123	1年				子どもが探究して学習している様子をHPで発信したりや保護者会で伝えたりする。		
124	2年				・生活科・総合的な学習の時間をより一層充実させていく必要がある。そのために、「年度当初に教員自身が見通しをもつこと」と「子どもたち自身が一緒に計画を立てていくこと」が必要であると考えている。		
125	4年				総合的な学習の時間では、児童の興味関心から材を設定し、児童の探究心が高まるようにする。保護者会や紙面にて適切に保護者に発信する。		
126	佐藤裕				世小研に参加し、日々の指導に還元する。実践としての学習内容が得られる。		
127	5年			・学習のはじめに児童と一緒に学習計画を作成することを改めて確認する。 ・生活科・総合的な学習の時間を充実させ、探究的に活動するよさをより児童が実感できるようにする。 ・保護者会だよりやHP等に、もっと児童の実際の声を取り入れる。	広報委員会を中心に、児童の実際の声をインタビューに行かせ、ホームページにアップする。		
128	6年・栗野				生活科・総合的な学習の時間をより充実させる。カリキュラムマネジメントも行い時数を確保する。		
129	常川				ひと昔前の明らかな教え込みや強制的な指導ではなく、探究的な学びの充実を引き続き行う。次期学習指導要領の論点整理が行われ、更に新しい学習観での教材研究、授業づくりの機運が高まっている。校内に留まらず、外に出て学ばなければ、授業力向上はない。まずは世小研から引き続き授業研究に取り組みたい。		
130	常川				子どもたちが「学ぶことが楽しい」という授業が充実し、子から親に伝わったり、学校公開等で保護者が目にしたりすれば、保護者にも本校が探究を大きなキーワードにして実践を積み重ねていると伝わるのではないか。		
131	6年・栗野	研修	その他		・運動会の種目に教員種目を入れたい。 →教員リレーなど（大野）	「児童が盛り上がる」などのことも考えられるが、午前中に会を終了させることを考えると、時間的に厳しいのではないか。	